

## シラバス参照

開講年度	2013
科目名	コンピュータと経済学
職名／担当教員	経済学部 教授 望月 宏
期間／曜日／時限	通年 水曜日 4時限
開講区分／校舎	一部生田／生田
配 当	E 2 3 , W 2 3 4
単 位	4

講義内容	<p>&lt;到達目標&gt; コンピュータシステムを活用し、経済学の理解と経済分析に応用する力を涵養する。</p> <p>&lt;講義概要&gt; 現代の経済社会の分析には多くの経済データを利用することができるようになり、それとともにこれらを迅速に処理するコンピュータが様々な分野で活用されるようになった。コンピュータシステムの理解と、それを利用した経済分析の手法を学ぶことはますます重要になりつつある。授業はコンピュータシステムの理解、表計算言語の習得に始まり、経済理論（定義、限界概念など）、統計学、数学の理解の上にたった経済分析を行うため、内容が多岐にわたる。具体的にはコンピュータシステムの理解に始まり、経済理論のコンピュータシミュレーション、産業連関分析など幅広い経済分析を学ぶ。なお、独自掲示板を授業におけるコミュニケーション、情報の収集、発信に積極的に活用する。</p> <p>&lt;講義計画&gt; &lt;前期&gt; 第1回 授業の到達目標、授業の履修方法、成績評価 第2回 コンピュータシステムの歴史と構造、数的処理 第3回 ハードウェアとソフトウェア 第4回 インターネットの歴史と構造 第5回 経済学の定義（1） 限られた資源と有効活用 第6回 経済学の定義（2） リニアプログラミングを使った限られた資源の有効活用による目的の適正化の理解 第7回 基礎的な経済理論のコンピュータシミュレーション(1) 限界概念の理解 第8回 基礎的な経済理論のコンピュータシミュレーション(2) 限界効用概念の応用 第9回 線形数学 ... マトリックス演算 第10回 産業連関表の基礎構造 第11回 レオンチェフの逆行列の導出と無限の波及効果 第12回 影響力指数、感応度指数の導出 第13回 13産業分類モデルを使った日本経済の構造的変化の分析 第14回 学生による分析の発表 第15回 前期のまとめとテスト</p> <p>&lt;講義計画&gt; &lt;後期&gt; 第1回 情報インフラとしてのインターネット 第2回 情報倫理 第3回 コンピュータシステムの技術動向の未来 第4回 科学的分析の基礎 第5回 基礎的統計値 第6回 相関分析 第7回 原因と結果 第8回 最小二乗法、回帰分析の基礎 第9回 単回帰分析 第10回 母集団とサンプル、統計的推論、検定 第11回 重回帰分析</p>
------	--

	<p>第12回 重回帰分析の経済分析への応用と実践（1） 第13回 重回帰分析の経済分析への応用と実践（2） 第14回 重回帰分析の経済分析への応用と実践（3）学生による発表 第15回 総合テスト</p> <p>&lt;教科書・参考書&gt; 授業内で指示する。</p>
成績評価方法・基準	全回出席と真摯な授業態度を原則とした上で、毎回の授業のまとめ、論考、および課題をネット上へ提出、小テストの評価、授業内発表、および最後の総合テストにより判定する。
履修上の留意点	<p>&lt;受講前提条件・関連科目&gt; コンピュータの操作の授業ではなく、コンピュータを道具として経済学、および経済分析の理解を深めるための授業であることに注意。マクロ、ミクロの経済原論、経済数学、統計学の授業との関連が深い。</p>
担当教員へのアクセス	メールによる ( <a href="mailto:mochizuki@post.harvard.edu">mochizuki@post.harvard.edu</a> )
その他	
更新日付	2013/02/04 22:49